

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年5月26日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870102548		
法人名	有限会社 サンパル		
事業所名	グループホーム 小吹ケアセンター	ユニット名	こちょうそう
所在地	〒310-0914 茨城県水戸市小吹町710-1		
自己評価作成日	平成29年1月4日	評価結果 市町村受理日	平成29年6月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_02_2_kani=true&amp;JigyosyoCd=0870102548-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_02_2_kani=true&amp;JigyosyoCd=0870102548-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成29年2月8日	評価機関 決 済 日	平成29年5月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"><li>・家庭的な雰囲気を利用者が安心して自分のペースで過ごして頂くことを目指します。</li><li>・利用者が生活コミュニティを感じていただくよう、積極的にスーパーや公園に出掛け地元の方とのコミュニケーションを図ります。</li><li>・外食や誕生会、四季折々の行事イベントを通し、楽しみが持てる生活を目指します。</li></ul>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>以前はショートステイ用の施設だった現在地に27年7月に移転した事業所は、表通りは基幹道路に面しているが、裏は畑、林など自然豊かな場所に立地し、利用者は四季を感じながら散歩などを楽しめる。</p> <p>利用者はトイレや洗面台が設置され、プライバシーが保てる居室で生活し、自分たちで作った展示品や雛飾りなどの季節に合わせた飾りなどを楽しみながら、談話室でゆっくり過ごされている。</p> <p>管理者や計画担当者は、利用者本位でケアプランを考え、利用者個人に合った生活が送れるよう支援している。また職員も利用者一人ひとりの希望に沿い、楽しく生活が送れるよう、行事や外出計画を考え、笑顔の持てる環境を心がけている。</p> <p>近隣の特別養護老人ホームなどと連携を取り、重度化に伴い家族の希望に沿った対応ができるように努めている</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をユニット入り口や休憩室に掲示し、日頃より職員の目に触れやすくし、意識してケアができるようにしている。	設立時に管理者と職員で相談して決めた理念を、玄関や各ユニット、職員休憩室に掲示したり、いつでも確認できるようネームの裏に入れ意識付けを行っている。 月1回の職員会議時に意識付けを行っており、職員はほぼ内容を把握し、利用者を楽しんで暮らしてほしいとの管理者との意思も統一されている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の夏祭りに参加している。市の社会福祉協議会に働きかけて月1回のシルバーリハビリ体操のボランティア派遣や行事開催時のボランティアを要請し、交流を図っている。又、利用者知り合いの方とも交流し、出来る状況にある時にはボランティアで入っただいている。	近隣の神社の夏祭りや豆まきに参加している。散歩時に近隣住民と挨拶を交わしたり、玄関の飾り付けを近所の人が見に来るなどの交流をしている。 毎週火曜日に傾聴ボランティアやシルバー体操、年2回程度の踊りのボランティア等を受け入れ、交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症ケアに関すること（施設内外勉強会資料の説明・配布）を利用者の生活状況も踏まえ伝えることで理解に結びつくように取り組んでいる。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族等や市職員、地域住民の代表を委員として2ヶ月に1回開催している。会議では事業所の状況報告や行事報告をしている。事業所で取り組んでいる内容について報告し、意見をもらうようにしている。運営推進会議により、ここは何の施設？何をやっているのか解らないと近所から聞くことがあると意見が何度か聞かれた。地域との付き合いの前に施設をまず知ってもらう取組を行うことが先決とし、地域の方が気軽に出入りできる環境作りを行っている。	家族等の代表者や市職員、自治会長、地域住民が出席する運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、行事や利用者の状況報告、事業所の取り組みについて報告している。 管理者がレビー小体型認知症ネットワークの研修に参加した内容を話し、参加者全員で認知症について情報の共有を行うなどして施設への理解を深める機会となるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者も多く、月初めの状態報告の他、利用者の状態変化に応じ連絡を取り合い相談・助言等受けている。	市職員は毎回運営推進会議に出席しているほか、窓口を訪問したり、介護保険更新申請時に相談をするなどしている。 生活保護者の報告や自費購入品などの相談に市役所を訪問するなど、お互いに良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成している他、勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている。カンファレンスによりサービス提供しているが、サービス内容において身体拘束がないか1つ1つ検討し計画を立て実施している。	身体拘束排除に向けたマニュアルを整備するとともに、外部研修に参加し、職員間で情報を共有している。 やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、同意書、経過観察記録、再検討記録などの書類を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を事業所の中で実施し理解を深め、職員の共有認識を図っている。高齢者（特に認知症）の方に対しての気遣いや配慮に欠けた言葉、接し方にならないように意識し、職員同士注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している方がいるので、市の職員が来訪時に相談を持ちかけ、それをもとに職員の理解を図るようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、入院となった場合等の考え方や取組、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情窓口を設けているとともに家族には訪問時や手紙にて利用者の状態を報告しながら、何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心掛け、家族の意見聴取に努めている。利用者においても、日常的に思いを聴取し、出された意見、要望等は会議で話し合い、反映させている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記して、契約時に家族等に説明するとともに、受付に掲示し、意見箱も設置している。出された苦情は苦情対応簿で管理している。家族からは面会時に意見を聴いており、面会簿が書きづらいとの意見があり、変更を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や月1回のユニット会議で意見を聞くようにしている。又、常日頃から職員とのコミュニケーションを図るように努めている。現場の状況を把握した上で勤務体制や配置異動の検討を行っている。	管理者は月1回の職員会議時に職員の意見や要望を聞くほか、日常的にコミュニケーションを図り、意見等を出し易い雰囲気づくりに努めている。職員からの勤務時間の変更や、外出しやすいよう考慮された入浴時間の変更などの提案を実施している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気分転換を図れる休憩室を確保したり、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、統制を図りつつ働く姿勢、能力等が反映される人事考課にて各自のモチベーションがあがるよう条件の整備に努める。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には、入社1ヶ月間は1対1のOJTの体制をとり、指導を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内の協議会があり、その中での職員研修に参加し質の向上に励んだり、外部研修や施設行事を通し、他事業所への相互訪問等を取り入れ、サービスの質の向上へと繋がる取組をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する際、必ず本人に会って心身の状態や本人が困っていること、不安なこと、本人の思いに向き合い安心して頂ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること等をよく傾聴し、受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族が必要としているサービスを検討し、他関連のサービス支援と連携を取りながら、安心してサービスを利用できるように心掛けしている。希望するサービスと提供するサービスにずれが発生しないよう注意を払っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来ることは職員と一緒に 行なって頂き、共に支えあう関係 となっている。とても家族的な雰 囲気の中でお互いを思い合える環 境作りに留意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方 の立場に置かず、本人と家族の絆 を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	利用者、家族共に居室や外出先で 楽しい時間を過ごされることもあ り、同じ時間を共有しながら、離 れた家族ではなく近い家族として、 関係を築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の 支援 本人がこれまで大切にしてきた 馴染みの人や場所との関係が途切 れないよう、支援に努めている	昔の職場の友人や知人などが来訪 され、交流を続けている。馴染みの 店や美容室などを訪れ、以前と変わ らぬ関係が継続されている。	入居時に利用者や家族等から話を聴いたり、 フェースシートを活用するとともに、日々の生活 の中での会話や関わりなどから利用者のこれまで の生活歴や馴染みの人、場所などを把握してい る。聞き取った内容は個人記録やケースノートに 記載し、共有を図っている。 馴染みの理・美容院へ職員が連れて行ったり、 近所に住む同級生や昔の同僚が訪ねてくること がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一 人ひとりが孤立せずに利用者同士 が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	利用者同士の関係性をみて、フロ アの座席の配置を検討したり、散 歩、及び外出支援の調整を行なっ ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了し ても、これまでの関係性を大切に しながら、必要に応じて本人・家 族の経過をフォローし、相談や支 援に努めている	新しい環境でも、これまでの生活 が継続できるよう生活環境や支援の 内容、留意点等について情報提供 し、連携を心掛けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話を通じ、利用者の思いなどを知ることが出来るよう耳を傾け把握に努めている。意思疎通が困難な方には家族や関係者から情報を得るようにしている。(日頃の表情や様子からくみ取り反映している)	職員は利用者と日々の関わりのなかでコミュニケーションを図り、一人ひとりの暮らしの希望や要望を個別ケース記録に残し、ユニット会議等で周知している。 意思表示の難しい利用者の仕草等をよく見て、トイレでの誘導排泄ができるようになった。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔の話聞き、育った環境や、今まで過ごしてきた環境を把握するようにしている。利用者の生活習慣なども家族から収集し、本人の全体像を知る取り組みをしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、その人ができることに注目し、現状の把握に努めている。できないことが有る時は、どうしたらできるか、又、出来ない事になるものは無いか検討しながら行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者毎に3ヶ月に1回のペースでカンファレンスを実施している。家族の要望や本人の状態や希望を把握し、本人の必要なこと、気をつけることなどを把握しケアプランを作成している。	利用者や家族等の意向を踏まえ、職員からの情報を元に医療関係者の意見も参考にし、計画作成担当者が作成している。 介護計画書は変更点や重要事項を色を変え見やすく作成されている。 3ヶ月ごとにカンファレンスしてプランを見直し、あまり変化がないような利用者でも、同じプラン、アプローチとにならないよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の変化や、職員の気付きなど個別介護記録に記載している。職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しを行い、評価をおこなっているが、一部、日々の様子の記載が少なくケアプランの実施状況のみに片寄っているところもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望や状況において、通院や送迎等、買物に同行するなど必要な支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市事業のオムツ券を活用している他、協力施設のリフトカーを借りることもある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の継続・変更についてや入所後、直近で通院歴の症状のない診療科への受診が検討される場合において家族の通院先の意向の確認を行い、入所前の関係性が継続できるよう対応している。	協力医療機関の医師による訪問診療が月2回あり、協力病院に職員が付き添ったり、以前からのかかりつけ医にかかっている利用者や認知症専門医の受診をしている利用者もいる。 重要事項説明書に受診の際の移送サービスを明記し、受診の付き添いを行っている。 家族へは電話や来訪時に報告し、職員へは申し送りノート、受診ノートに記載して報告、周知を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師や隣接施設の看護師と連携をとっている。体調や些細な表情の変化を見逃さないよう、常日頃から、早期発見に取り組んでいる。変化等に気付いたことがあれば、協力病院の看護師に利用者の状況を密に相談し、指示・助言を受けながら、日々の健康管理に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が定期的に病室を訪問し、本人の病状について看護師に聞き取りをし、状況把握を行っている。又、早期退院できるよう病院より今後の方向性や受診についての説明を受け、家族・主治医とともに話し合いの場を持ち、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が発生しない、身体的機能の低下及び認知症の進行に伴う重度化については、長期的支援の継続ができています。本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとりながら、安心して最期を迎えられるように、随時確認しながら支援に取り組んでいる。	契約時に看取りを行わない旨を利用者や家族等に説明している。重度化については事前に家族から同意書にて承諾を得ている。最後までみてほしい家族や、医療行為が必要な利用者について、訪問看護の受け入れを個人契約で行うなど検討し、面談を進めている。	重度化等、職員の心構えや対応ができるよう、外部・内部含めての職員研修を行うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置マニュアルをもとに職員はいつでも振り返りができるようになっている。又、定期的な勉強会にて知識・方法を取得できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消化・避難誘導・通報訓練を行っている。	避難訓練の際には記録や反省会を行い次回への課題を話し合っているが、夜間や地震を想定した訓練を年2回実施するまでには至っていない。災害に備え、米や水、食料品、懐中電灯、オムツ類を保管庫にきちんとまとめているが、備蓄品一覧表を作成するまでには至っていない。	夜間想定や地震を想定した年2回の避難訓練の実施を期待するとともに、備蓄品の一覧表での管理を期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助や、排泄介助の声掛けなどは他の利用者に気付かれないよう、声掛けを工夫している。利用者が頑張っている毎日継続されていることについて、応援する言葉掛けを行っている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。職員会議等で声のかけ方などを確認している。 個人情報や写真掲載についての同意書を整備している。 個人情報に関する書類は各ユニットごとに鍵のかかる棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞きながら、利用者の負担のない生活ができるよう心掛けている。言葉で自分の思いを伝えられない利用者については表情を読みとり、短い言葉掛けを何度も行うなど、利用者の表情と合わせてできるだけ本人が決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や体調に合わせ、無理のない活動を行っている。趣味の観葉植物の手入れなど、興味のある事が継続できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温などに合わせ、洋服を選らぶ相談にのり、一緒に選ぶようにしている。全介助の方には、気候に合った服を職員が選び、同意を求めている。現在、月に1度の出張理美容があることから、利用されている方も多い。男性は入浴時など髭剃りを行い、身だしなみの支援を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事を摂れるようにしている。トレーの準備や食器拭きなど、各利用者の力に合ったことを協力していただいている。	事業所の栄養士が利用者の好物や苦手なものを踏まえて献立を作成し、事業所内の厨房で調理している。厨房に苦手なものを書いた一覧表があり、代替食が可能となっている。ケアプランに基づき食事の準備を手伝う利用者がいたり、ほかの利用者も作業しやすいようテーブルに工夫をしている。家族等の協力を得て月1回外食をしたり、様々な方法で食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事チェック表にて1日の状況を把握し、確認している。水分、食事が不足している方には、本人の食べやすい、好きなもので摂っていただけるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の能力に合わせ、口腔ケアを実施している。また、家族や本人の希望により、毎食後の口腔ケアの他、週1回の訪問歯科を受診し、口腔ケアを行っている方もおり、訪問歯科と連携し、口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンを把握し、トイレの案内や声掛けを行っている。排泄時、一人でもトイレで失敗なく、排泄が行えるように目印をつけたり、トイレだと認識できるよう表示している。一人ひとりの能力にあった排泄支援を行っている。	排泄チェック表、個人記録から利用者の排泄パターンを把握するとともに、利用者の状況により居室内のトイレにさりげなく誘導している。このような排泄ケアにより、おむつからリハビリパンツ、リハビリパンツから布パンツに移行した利用者もいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を把握し、水分摂取量の少ない方はお茶などの水分を増やしたり、ゼリーなどを摂取していただいている。便秘気味の方には、毎日、ヨーグルトや果物を摂取していただき、腸内環境の改善に努めていただいている。歩行運動や体操の働きかけをしながら、便秘の予防や対応に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日は基本固定となっているが、一人ひとりの状況や、体調に合わせ、午前と午後を選択できるようにしている。又、体調不良や入浴ができない場合は翌日に変更するなどしている。入浴を楽しんでいただけるようゆっくり入浴ができるよう支援している。	入浴は基本的に週3回利用者の意向に沿っていつでも入浴できるよう支援しており、日曜日以外毎日入浴している利用者もいる。入浴を拒む利用者に対しては、日時を変えたり、職員を替えたりするなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムに合わせた休息や就寝ができるよう配慮した声掛けを行っている。シーツ交換は少なくとも週1回実施し、衛生保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方薬情報を保管し、効能、副作用などが全職員が分かるようにしている。薬に変更や追加などがある場合は、連絡ノートに記載し、状態変化の観察に努めている。服薬の間違いがないうよう、毎回、日付、名前、薬の個数を利用者と確認している。飲み忘れがないよう、内服後の袋も取っておき、残薬がないことを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や生活歴に合わせて、食事の準備、食器拭き、洗濯物干し、洗濯たたみ、洗面所の掃除など等をお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。新聞を読むことを楽しみにしている方には、毎日、欠かさず新聞を読むことができるよう支援を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺などには、いつでも外出できるようになっている。利用者の希望により、買物や衣類を買いに一緒に出掛けたりしている。家族の協力も含め、希望に添って外出できるよう支援している。計画の下、夕食やスイーツを食べに出かけている。	職員と一緒に裏の池や神社へ散歩に出かけ、近隣住民と挨拶を交わしたり、前のコンビニエンスストアに買い物に行ったりする。年間行事を立て、家族等の協力を得て、車いすの利用者も一緒に初詣や希望するところへ外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者にとっては、心の安定を図るため、お金を自身で管理されている方もいる。自身で管理できない方は、買物や必要な時のみお金を持参し、自分で支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望の応じて、電話を掛けたり、手紙を出せるよう支援している。電話は施設の固定電話や、PHSを使用し、居室で話をする事ができるようになっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	座席の位置など、利用者同士が不快にならないように、職員間で様子を伺いながら検討を行っている。フロアでは季節感を感じていただけるよう装飾を行い、花や小さな植物も育てている。廊下には、外出やイベント時の写真を展示し、本人や家族にも様子を知っていただけるようにしている。	玄関には利用者と職員が一緒に作成した壁紙や季節感のある絵手紙、観葉植物が飾られ利用者や来訪者の心を和ませている。共有空間は日当たりがよくひなたぼっこができる。トイレは各居室にあり、ユニットには広いトイレが1カ所ある。浴室は個浴と機械浴があり、自家菜園で採れたヘチマで作ったたわしが置いてある。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを2つ置き、一人でゆっくり座られ、くつろいだり、数名で談笑されるなどされている。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者毎に、馴染みの家具を持参され、居心地のよい環境に配慮している。居室内の家具の配置に気を配り安心した生活が送れるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋が分からなくなった時のために、居室入り口の表札に名前を書いている。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム 小吹ケアセンター

作成日 平成29年6月22日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	問題：現在終末期における看取りの対しての体制が、事業所として方針が決まっていない。 課題：今後更なる重度化を迎えるにあたり、看取りに対して向き合わなければならない。	看取りケア	看取りケアの重要性を考慮し、職員の心構えや対応ができるよう・外部・内部を含めての職員研修を実施。	1年（その後も継続する）
2	35	災害対策 夜間や地震を想定した訓練を年2回実施するまでには至っていない。	定期的な避難訓練	夜間想定や地震を想定した年2回の避難訓練の実施。 備蓄品一覧表の作成。	1年（その後も継続する）
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。